

令和元年度の主な事業報告

社会福祉法人ふじの郷

法人全体にかかわる報告事項

- ・グループホームけやき坂定員 12 名短期入所定員 2 名の事業開始
- ・放課後等デイサービス神山さつきの森定員 10 名事業開始
- ・さつき学園の個室化に向けた大規模改修プランの検討を開始
- ・増築に備えて開発申請の公函調査を開始
- ・富士市新工業団地誘致に伴うふじあざみ移転工事着手 令和 2 年 5 月完了
- ・法人監査、実地指導受任
- ・SNS での広報活動開始 フェイスブック・インスタグラム
- ・富士圏域で法人主催の研修会と居場所事業実施
- ・ふじあざみ施設長、さつき学園長の兼務から独自施設長を任命
- ・台風 19 号の被害に対する募金活動実施
- ・新法人パンフレット作成委員会設置
- ・福祉人材の就職フェアに学生が全く集まらず、不調
- ・

令和元年度事業報告

「さつき学園」重点報告

1. 人員体制については引き続き利用者 1.7:職員 1 の最も手厚い基準を維持している。
2. 新人職員にはプライマリー制度を導入し、先輩職員の担当者による職場教育を行った。
3. 表彰・感謝状…自衛隊援護局より感謝状とリサイクル協会からアルミ缶リサイクル活動への表彰をしていただいた。
4. 家族会で初めて独自に親の高齢化に関する課題とその対策についてアンケート調査を実施した。
5. 静岡県による実地指導、大きい指摘事項なく無事終了
6. A 棟の階段で利用者の突き飛ばしによる転落事故発生、56 歳の利用者が頭部挫傷の大けが、他階段がらみの転倒等の事故が続いた。改修工事の計画をしているが、コロナ禍で、延期している。
7. 嘱託医の後任に静岡県発達障害者支援センターあいらのセンター長岡田祐輔氏に交渉開始
8. インフルエンザ流行したが、絆棟の活用と職員の感染防止対策で一部に封じ込めた。利用者 16 名職員 7 名…例年はほぼ全員がり患。
9. 家族会の存続について見直しが始まる
10. 増改修プロジェクト準備委員会始動
11. 新型コロナ対策による面会制限・週末帰省中止の対策開始

12. 増改修の公図調査開始、増改修の年次計画(2年公図調査・3年測量設計と基本設計・4年駐車場整備・5年本工事)提示、国・県の補助申請する。

日常支援体制

- ① 支援
 - ・個別支援計画を各棟の支援会議により成案化し、年2回モニタリングを実施。
- ② 会議…職員会議・主任会議・棟別会議・権利擁護委員会・作業班会議
ケース会議
- ③ 広報…法人広報誌「ふじの郷」、さつき学園広報「さつき通信」発行
フェイスブック・インスタグラム・施設パンフレット、自閉症啓
発ディの取組みなど
- ④ 虐待防止・権利擁護…後見法人御殿場さつきとの連携、行動制限実施
報告書の作成、伝言機能による啓発、
- ⑤ 防災・安全管理…毎月の防災訓練・安全運転検定の実施・車両の管理・
非常用食料の管理・非常時のマニュアルの作成と見直しなど
- ⑥ 医療…健康管理・日常的な与薬・管理、緊急時の対応、通院・入院への
対応、嘱託委への報告と毎月の連携協議
- ⑦ 栄養…給食による栄養管理、給食委員会を開催し、情報交換
- ⑧ 研修…全体職員研修・新人職員研修・他外部研修への積極的参加
- ⑨ 苦情解決・第三者委員…苦情受付と苦情に対する検討
- ⑩ 余暇活動と家族との関り…土日在園者の余暇活動の充実とグループ外
出などの余暇の充実・クラブ活動の充実・家族会への協力と参加、家
族会研修会への協力

グループホーム「けやき坂」重点報告

1. 平成31年3月28日新築竣工式を行い、4月1日から事業を開始した。さつき学園からの地域移行者8名とこれまで通所通っていた方4名の計12名の利用者さんが新たな生活環境に慣れるよう全力で支援した。
2. 利用者さんの日中活動のための関連整備(プレイルームの改修)を行った。
3. 人員体制の強化で、パートの募集が不調で常勤職員2名を増員
4. さつき学園通所部門との連携を密にし、定期的な会議で情報交換を行った
5. 静岡県による実地指導、さつき学園との兼務者の整理が課題
6. ショートステイの開始に向けた話し合など、事業開始への努力を行った。

日常支援体制

- ① 支援…個別支援計画を成案化し、年2回モニタリングを実施。
- ② 会議…職員会議・ケース会議・通所部門会議
- ③ 防災安全管理…消防計画の策定・学園と合同の防災訓練
- ④ 医療…健康管理・日常的な与薬・管理、緊急時の対応、通院・入院への

対応、嘱託医への報告と毎月の連携協議

- ⑤ 栄養…給食による栄養管理、情報交換
- ⑥ 研修…全体職員研修・新人職員研修・他外部研修への積極的参加
- ⑦ 苦情解決・第三者委員…苦情受付と苦情に対する検討
- ⑧ 余暇活動と家族との関わり…さつき学園家族会に併せての活動報告など

令和元年度「神山さつきの森」事業報告

1. 平成 31 年 4 月開所。契約者 11 名。御殿場支援学校在籍の中高生が中心。1 日の利用は 4 名から 7 名。強度行動障害の知的重度の自閉症児が 9 割。ほぼマンツーマンの対応を行っても対応が難しいケースが多い。
2. 自閉症支援の基本の TEACCH を軸とした環境調整、関わり方として応用行動分析 (ABA) を軸に支援を行い、他害、自傷、大声、破壊、不潔行動に対して、半分程度行動修正ができ、地域の中で対応困難な子供たちの行動を改善し、疲弊する家族を支える役割が徐々に出来てきている。
3. 自閉症支援の専門施設の中にできた放ディとして、注目される部分も多く、御殿場特別支援学校、他の放ディ、育成会など県内からの視察、見学者は 40 名以上
4. 平日は月に 1 回スタッフミーティングを行い、ケース検討、支援の振り返りを行い、PDCA サイクルで課題を解決した。

日常支援体制

- ① 支援…個別支援計画を支援会議により成案化し、年 2 回のモニタリングを行う
- ② 会議…毎日の振り返り、1 回/週の支援会議、1 回/月の全体 MT (ミーティング)
- ③ 広報…広報「さつきの森だより」を発行 毎月
施設パンフレットを作成、支援学校、市町障害福祉課窓口等に配布
- ④ 医療…利用時の検温、緊急時さつき学園看護師への連絡と連携
- ⑤ 防災安全管理…防災マニュアルの作成、安全運転検定の実施
- ⑥ 栄養…学校休業日は給食提供
- ⑦ 研修…1 回/月 MT。アドバイザーとして個別療育を行っている方、特別支援学校元教諭を雇用し、見立てと支援の方法を具体的に指導。ケース検討、支援の振り返りを行い、課題の整理と解決に向けた取組み、支援方法の確認を行い、PDCA サイクルで課題を解決。他外部研修への参加、他施設や特別支援学校の見学
- ⑧ 苦情受付・第三者委員…直接の苦情は無し、要望や質問に対しては保護者との面談を行い個別ニーズに対応
- ⑨ 活動・家族との関わり…個別課題、興味関心に沿った活動提供。送迎時直接保護者の相談に応じ、希望があればその都度個別の相談の機会を設け対応
- ⑩ 高校卒業後の就労先、生活介護施設への移行支援

令和元年度「ふじあざみ」事業報告

1. 富士圏域の発達支援コーディネーターを受託し、地域の発達障害児者の支援を展開した。
2. 富士特別支援学校高等部を卒業した男性を令和2年3月より受け入れ定員24名に対し29名の利用者となった。
3. 10月1日より笠倉が新施設長となり小林さつき学園長の兼務が解かれた。
4. 職員配置を増やし、2.0:1の体制になり報酬費の増につながった。
5. 選択外出先を増やし、同じ利用者が1年に2か所まで外出できるようにした。一つの場所に多数の希望者が出たので、同じコースを2班に分けて実施することにした。ただし、羽田空港見学はコロナウィルスの関係で延期し、場所を静岡空港に変更したがコロナウィルス感染防止のため実施にはいたらなかった。
6. 選択外出の実施にあたり、さつき学園のワゴンを借用させていただき助かりました。
7. 新棟建設にあたり、今の建物の不備や使い勝手を基に職員の意見を聞いて設計に反映させた。職員の意見を細部に渡って設計士が聞き入れ、ユニット制の支援が展開しやすい建物とすることが出来た。

[日常支援体制]

- ① 支援…個別支援計画を支援会議にて成案化し、年2回以上のモニタリングを実施
- ② 会議…職員会議、ユニット会議、リーダー会議、ケース会議
- ③ 広報…広報「ふじあざみ通信」を毎月発行
自閉症啓発デイに併せてティッシュやレジメの配布
- ④ 防災・安全管理…防災訓練を毎月実施し、車両の管理や非常用食料の管理を行う
- ⑤ 医療…健康管理、与薬と薬の管理、緊急時の対応、通院への対応、欠席者の状況確認、嘱託医への報告と連携協議
- ⑥ 栄養…給食による栄養管理に努め、給食委員会を開催しての情報交換
- ⑦ 研修…全体職員研修、外部職員研修への積極的な参加
- ⑧ 苦情解決・第三者委員…苦情受付と第三者委員との連絡
- ⑨ 余暇活動と家族との関り…ワンコイン外出などの余暇充実、サポーターズクラブへの協力と参加、自閉症協会富士支部への協力
- ⑩ 生産活動の受注と各企業との調整